

【7つの共創分科会】

① 高付加価値（ラグジュアリー）ツーリズム共創分科会

「高付加価値（ラグジュアリー）ツーリズム共創分科会」は、世界から350万人以上の海外来場者が想定される大阪・関西万博を契機に、さらに万博後に向けて、昨年1,892万人のインバウンド客が飛来した関西国際空港を持つ大阪湾から京都～関西、とくに多島美の瀬戸内～西日本地方を繋ぎ、海外からの富裕層を対象にラグジュアリーツーリズムの推進に取り組めます。各地域の特別な体験や文化歴史・自然資源の編集、地域を繋ぎ事業者と繋ぐネットワーク化、海外の富裕層顧客を持つ旅行会社との連携等、企業や自治体、大学等と共創し、実証事業から新たな事業が実装され、平和でウェルビーイングな世界の象徴と言える高付加価値観光事業の創出を目指します。

② ブルーエコノミー共創分科会

大阪・関西万博は四方を海に囲まれた初の国際博覧会で、まさに世界と繋がる“海の万博”です。「ブルーエコノミー共創分科会」は、漁業・養殖業等の水産資源だけでなく、海運、エネルギー、観光等、様々な産業と密接な関りがある日本の財産の海を活かし、地球環境と海洋の持続可能な発展を促しつつ、新たな産業や雇用を生み出しイノベーションを進めるブルーエコノミーが大阪・関西から広がっていくよう、産学公が共創して取り組んでまいります。豊富な資源を有する海洋が経済を成長させ、2030年までに市場規模が500兆円に達すると試算されるブルーエコノミー領域のビジネスネットワークを助け、共創や新事業展開に繋げていくことを目指します。

③ アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済共創分科会

「アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創分科会」は、万博を契機に、さらにその先の未来に向けて、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創を目指す日本国際芸術祭を中心に活動を行います。日本国際芸術祭は2023年から開催、2025年は大阪・関西万博会場でも開催し、2026年以降も毎年開催します。2025年は万博会場の本芸術祭に出展される多くの企業・大学・自治体・アーティスト等との共創の機会ともなります。本分科会は、日本の魅力を発見・評価、そして融合・更新する「新しい共創のあり方」、万博を通じて一気に世界に繋がる好機を活かし、芸術文化と科学技術と経済の共創の好循環の創造を目指します。

④ 公式参加国共創分科会

「公式参加国共創分科会」は、万博を契機に国際共創を通じた関西でのビジネス創出をミッションに活動します。万博期間中は、各国総領事館や関係機関との連携により、各国を代表して万博に集結するスタートアップなどの企業による『複数国による合同ピッチ&交流イベント』や、万博参加国の総領事や商工会議所をお招きした『万博ラウンドテーブル』の開催など、多角的な共創活動を計画しています。万博を契機に繋がり広がった世界各国とのグローバルイノベーションのプラットフォームとなる本分科会は、参加メンバーがグローバルなネットワークを拡充し、最新の国際ビジネス動向に触れ、新たなビジネス創出の機会を得ることを目指します。

⑤ 大阪IR（統合型リゾート）& ベイエリア共創分科会

2030年の開業を目指す大阪IRは、2023年4月に「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」について国からの認定、同年9月に大阪府市と大阪IR株式会社が実施協定等を締結され、世界最高水準の成長型IRの実現を図ることで、成長産業である観光分野の基幹産業化を図るとともに、大阪・関西の持続的な経済成長のエンジンとして期待されています。万博の来場者数は約2,820万人、うち約350万人の訪日外国人を見込んでいますが、大阪IRは約2,000万人、うち約600万人が国外からと想定されています。「大阪IR（統合型リゾート）& ベイエリア共創分科会」は、万博後も多くの観光客を呼び込み、国際都市大阪～関西の未来創りを目指します。

⑥ ライフサイエンス・ウェルビーイング共創分科会

「いのち輝く未来社会」を目指し、身体的、精神的に健康な状態に加え、社会的、経済的に良好で満たされるウェルビーイングへの関心が高まり、2030年達成を目指すSDGsの次のBeyond SDGsのキーワードはWellbeingとも言われています。また21世紀は生命科学の世紀といわれ、人類を悩ます病の克服や食料・環境問題の解決等、人々の生活に直結したライフサイエンスが期待されています。「ライフサイエンス・ウェルビーイング共創分科会」は、ライフサイエンス分野の研究機関や企業が集積する大阪・関西に、ウェルビーイング産業やスタートアップが創出、集積し、世界からリスペクトされるウェルビーイング都市リージョンに成長する共創づくりを目指します。

⑦ スタートアップ共創分科会

多くのスタートアップが新しい挑戦をしていますが、グローバルに活躍する企業はまだ一部で、日本は世界から遅れを取り、アントレプレナー人材育成やスタートアップをビジネスに繋ぐエコシステムも確立されていません。「スタートアップ共創分科会」は革新的な技術やビジネスモデルで世界に新しい価値を提供するスタートアップ企業を生み出し、ヘルスケア、ライフサイエンス、再生医療等の高度な研究成果が蓄積されている関西から世界に向けて、ヘルスケアやウェルビーイング等のスタートアップピッチコンテストを継続して開催し、グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラムとして、エコシステムの形成を目指します。